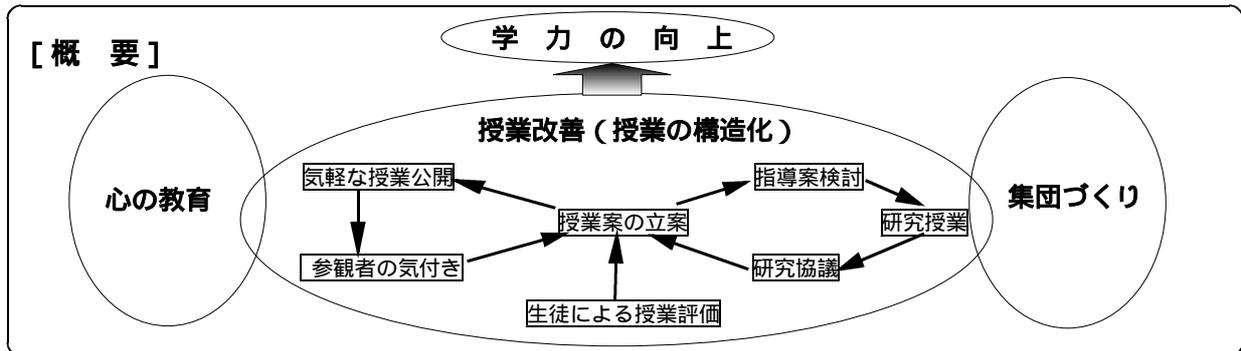


4 構造化した授業を全教科で実践し、授業の質を高める



全校体制で学力向上をめざす

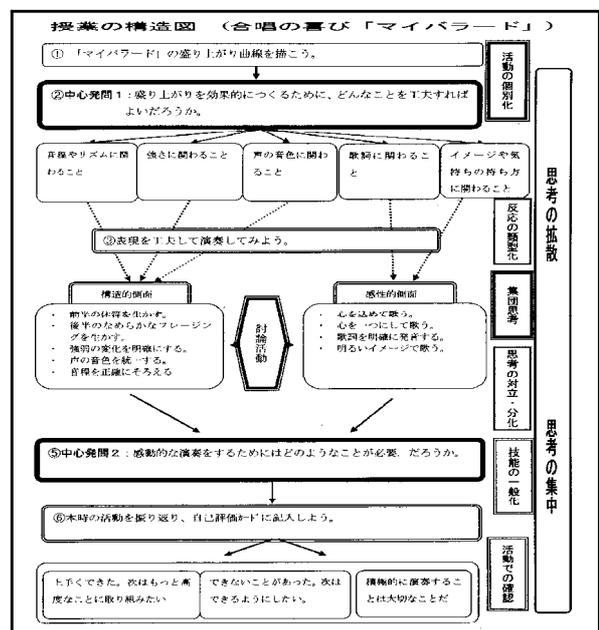
学力向上のための研修となると、とかく偏った教科だけの、内容を絞った研究となりがちである。しかし、生徒の確かな学力の育成のためには、偏った教科だけでなく、全教科で質の高い授業を展開する必要があると考える。そこで、研修も全教科において実施できる内容を設定し、全教員の授業力の向上をめざすことに力点をおきたい。

教科の枠をこえた授業研究を仕組む

生徒に確かな学力を付けていくために、我々教師は「解説型・教師主導型の授業」から脱し、どの教科においても「生き生きした生徒の活動・学び合いのある授業」、「学習意欲が高められる授業」が、展開される必要がある。しかし、各教科で独自の指導法や授業論を追究している状態では全校的な授業研究を深めることは難しい。

それを打開していく手だてとして、「全教科共通の授業構造」を考え、それを共有して授業づくりの過程を研修していき、教科の枠をこえた授業研究を仕組むことが考えられる。そのことによって他教科であっても授業の流れや学習の深まりについて意見交換がしやすくなる。研修によって習得した手だてや発問の工夫はそのまま自分の教科に生かすことができる。

次の図は、音楽科の「授業の構造図」である。



音楽科の授業構造化の例

この構造図は、どの教科でも作成することができ、「授業の構造図」を使うことで、他教科の授業でも授業の本質に迫る研修が可能となる。

気軽な授業公開による個人研修と、外部の指導者を招聘した全体研修の二本立てで行う

1 個人研修 ～気軽な授業公開～

学校現場では、全教科の授業研究会の時間を生み出すことが難しいのが現状である。そこで、日頃から気軽に授業公開をする体制を考え、個人ができるだけ多く研修の機会を得られるようにしたい。その際、日常の教育活動の支障にならないように配慮することが大切である。例えば授業公開

時、授業者は「授業の構造図」のみを提示する。そして空き時間の教員が参観し、授業の気付きやメモを授業者に渡すという方法が考えられる。逆に、授業を積極的に参観する期間を設けるという方法も、研修時間の捻出には有効である。

2 全体研修 ～研究授業～

全体研修における授業研究会は、指導案検討会 研究授業 研究協議という流れで行う。可能であれば外部から指導助言者を招聘し、指導案検討の段階から参加していただき、指導助言を得ることが望ましい。

(1) 指導案検討会

「授業の構造図」を使った研修での最も大きな研修の場は、この指導案検討会である。

指導案検討会を開く利点としては、授業内容を事前に全員が周知することができる。校内研修主題の視点で事前に意見を交換することで、より目的に合った研究授業ができる。みんなで創り上げた授業となり、連帯感をもって研究授業を参観でき、授業者の精神的負担も軽くなる。

等が挙げられる。

指導案検討会は、研究授業日の1週間前までに最低でも1時間半は時間を確保したい。できるだけ全員参加で臨む。さらに、指導助言者には、あらかじめ指導案を送る等の配慮が必要である。また、比較的時間の確保がしやすい長期休業中の研修であれば、「全員で、ある授業の構造化を図る」といった指導案検討会も仕組むことが可能である。



今回例として挙げた「授業の構造図」による大まかな授業の流れは、

中心発問1による生徒の「思考の拡散」

生徒同士のかかわり合い・学び合い

主眼に迫る中心発問2による、「思考の集中」

である。そこで、指導案検討会では以下の5項目

について検討したい。

主眼が適切か

主眼達成のための手だてが適切か

発問は生徒の思考を十分拡散し、集中するものになっているか

評価方法は適切か

支援を要する生徒の配慮はなされているか

指導案検討会を充実させることは、その後の研究授業はもちろん、研究協議も短時間で充実したものになるので、とても重要である。

(2) 研究授業

研究授業を実施するにあたっては、自習のできる手だてや体制を整えて、可能な限り全員参加が望ましい。また、指導助言者はもちろん、保護者や他校の教員が参観しやすい期日や時間設定の配慮も必要である。

(3) 研究協議

研究協議は、研究授業と同じ日にもつことが適切であるが、数日内に複数の研究授業を実施してそれに合わせて研究協議するという工夫なども考えられる。

協議内容も、指導案検討会で課題が明確になっており全教科で授業構造を共有してるので、参加する全員が、ほぼ同じ課題意識をもって協議できる。実施した教科の授業内容の検討に止まらず、全員が「自らの授業改善の課題」として受け止めて協議することが容易になる。

学校の教育目標、教育課題にそった教育活動の一環として授業研究を位置付ける

構造化した授業による研修は、一校に同教科の教員が複数いない、小規模校や中規模校において、特に有効である。

なお、学習が深まる授業を創るためには、互いに高め合おうとする学級・学校集団づくりも重要である。研修の内容に「集団づくり」に対する共通実践項目を盛り込んだり、あらゆる機会をとらえて「心の教育」を実践したりすることが、相乗効果を生み、授業の質を高めることにつながる。